

## 再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：深澤 淳志

<b>事業名</b> 地域高規格道路名豊道路 一般国道23号 岡崎バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 中部地方整備局
<b>起終点</b> 自：愛知県額田郡幸田町芦谷 至：愛知県西尾市南中根町		<b>延長</b> 14.6km
<b>事業概要</b> 一般国道23号岡崎バイパスは、愛知県額田郡幸田町芦谷を起点とし、同県西尾市南中根町に至る延長約14.6kmの道路で、名古屋都市圏と豊橋間を結ぶ地域高規格道路の一部区間です。岡崎バイパスは、国道1号、国道23号の幹線道路の交通改善、三河港の物流交通の効率化、西三河地域の地域振興支援、三河湾の観光振興支援を目的として事業を推進しています。		
<b>S55年度事業化</b> S50～51年度都市計画決定		<b>S55年度用地着手</b> S61年度工事着手
<b>全体事業費</b> 約860億円		<b>事業進捗率</b> 80%
		<b>供用済延長</b> 14.6km (暫定供用済み)
<b>計画交通量</b> 42,400台/日		
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 2.6 (残事業) 6.5	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 172/1,279 億円 <b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 1,121/3,331 億円 (事業費：134/1,241億円) (走行時間短縮便益：840/2,645億円) (維持管理費：38/38 億円) (走行経費減少便益：176/426 億円) (交通事故減少便益：105/260 億円)
<b>感度分析の結果</b> 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=7.3(交通量+10%) B/C=5.9(交通量-10%) 事業費変動：B/C=6.1(事業費+10%) B/C=7.1(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=6.1(事業期間+10%) B/C=7.0(事業期間-10%)		
<b>事業の効果等</b>		
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の渋滞損失時間の削減が見込まれる。【約43,740万人時間/年→約43,236万人時間/年 約1%削減】 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 【国道1号：安城市八帖帖字大通(18.3km/h)、安城市尾崎帖大塚(14.7km/h)】 ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在する。 【名鉄バス：上郷線、岡崎・坂戸線、矢作・市民病院線(国道1号利用)】 ・蒲郡市から中部国際空港へのアクセス向上が見込まれる。【約94分→約77分】		
②物流効率化の支援 ・刈谷市から重要港湾三河港へのアクセス向上が見込まれる。【約106分→約53分】		
③都市の再生 ・市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり。【西尾市土地区画整理事業施工中：3地区】		
④国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路の位置づけあり。【名豊道路】		
⑤個性ある地域の形成 ・総合保養地域整備法に基づいた基本構想「三河湾地域リゾート整備構想」を支援する。 ・高浜市からラグーナ蒲郡へのアクセス向上が見込まれる。【約73分→約41分】		
⑥安全で安心できるくらしの確保 ・幸田町から安城更生病院(三次医療施設)へのアクセス向上が見込まれる。【約27分→約25分】		
⑦災害への備え ・愛知県地域防災計画(平成21年6月策定)において第一次緊急輸送路に位置づけられている。 ・並行する国道1号の代替路を形成する。		
⑧地球環境の保全 ・CO2排出量が約61千t/年(約1%)削減。【13,553千t/年→13,492千t/年】		
⑨生活環境の改善・保全 ・NO2排出量が約17.4t/年(約21%)削減。【82.4t/年→65.0t/年】 ・SPM排出量が約0.7t/年(約17%)削減。【4.2t/年→3.5t/年】		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>		
・10市5町で構成される名豊道路建設推進協議会が未供用区間の早期完了、交通混雑区間の立体化および4車線化を要望。 ・県知事の意見： ○対応方針(案)「事業継続」について異議なし。 ○名豊道路は物流の軸であり、国道1号のバイパスとしての整備効果が発揮されるよう、全線の継続的な事業促進を図っていただき、早期の効果発現をお願いしたい。 ○事業実施にあたっては一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に努められるようお願いしたい。		

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・幹線道路および岡崎市街地の交通混雑
- ・部品製造工場等の集積
- ・三河港の発展
- ・観光施設の進展

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・全体事業進捗率は、約80% (H21年度末見込み)
- ・用地取得率は、約100% (H21年度末見込み)
- ・幸田芦谷IC～安城西尾IC：暫定2車線供用。
- ・西尾東IC～安城西尾IC間：L=5.5km 橋梁部の下部工工事を実施中。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

全線4車線の早期供用に向けて鋭意事業推進を図る。

施設の構造や工法の変更等

連続高架橋の構造形式の見直し等によりコスト縮減を図る予定。

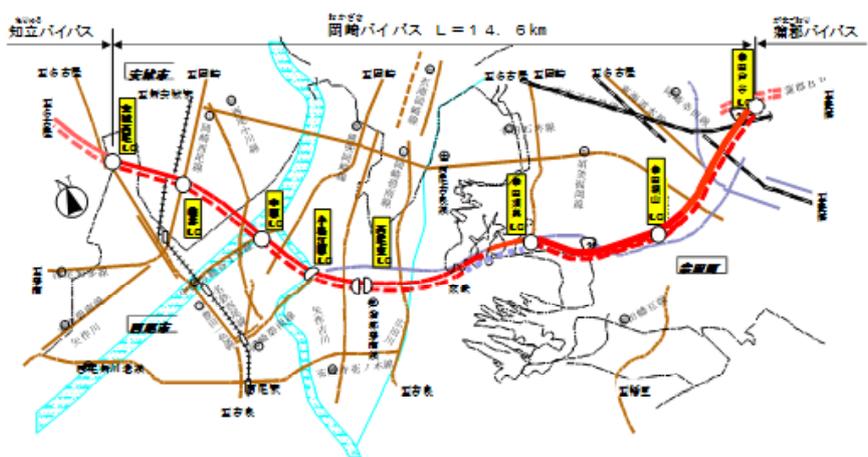
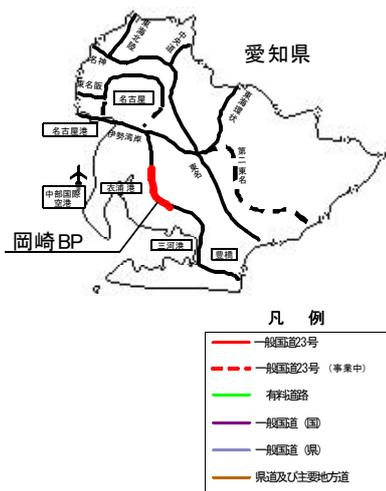
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。